

令和4年度 串間市立市木小学校「学校関係者評価書」

評価の基準	「4」期待以上 ～85%	「3」ほぼ期待通り 84%～70%	「2」やや期待を下回る 69%～40%	「1」改善を要する 40%～
学校の教育目標	自信に満ち 豊かな心をもって たくましく生きる子どもの育成			

本年度の重点目標 ○ 生きる力を育む確かな学力の育成 【知：共に学び伝え合う喜び】

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自校評価	外部評定	学校関係者評価委員コメント
生きる力を育む確かな学力の育成	■分かりやすい授業づくり ・授業に向かう態度 肯定的回答 児童 86% 保護者 94% 教師 67% ・授業内容の理解 肯定的回答 児童 97% 保護者 85% 教師 100%	1	概ね「3」の評価 ○ 児童の自己評価及び保護者による評価においては、80%以上が肯定的な回答であったが、教職員においては、67%に留まった。今後、更なる学習訓練を図り、学校全体として80%以上の肯定的意見になるようにする。			○ 児童が授業に落ち着いて開始できる学校生活の雰囲気は日頃の指導の積み重ねの賜物。特に朝は、頭も体もまだ目覚めていない児童が多く、家庭でも朝ごはんをしっかりとり、時間に脳が回転し始めるのが大切。 ○ 参観日に日頃の学習の状況を拝見したが、どの教室でも教師が分かりやすく、定着しやすいように教材やICTを用いていて頭が下がる思いだ。児童も積極的に発表し、教師が毎日上手に発表できる環境を作っていることが感じられる。 ○ 授業や発表会などで安心して自分の考えを発言できる雰囲気があり、各自の意見が出やすい環境になっている。 ○ 教職員の評価の落ち込みについては、児童がもっと主体的に学ぼうとする力を引き出してあげれば、もっと伸びる力を持っていると思うので、まずは「楽しい授業」「わかりやすい授業」の実践をお願いしたい。
		2	概ね「4」の評価 ○ 学校では、児童の協働的な学習を推進するために、ICTの効果的な在り方について教員の研修を充実させながら、日々の授業改善に取り組んできた。各学級でもICTを活用した授業を積極的に行い、児童の操作技術だけでなく、発表や話し合いにおいても効果的な活用がなされている。また、6年生の全国学力調査、5年生のみやざき学力調査では、全国平均や県平均を上回る内容も多かった。しかし、学年によっては学習内容の定着が不十分などあるため、学年末に積み残しがないよう復習を充実させていく。			○ 教育現場のICT化の流れは今後とどまる事なく、益々加速していくことでしょう。ただ、児童・教師双方のメリット・デメリットに注意して頂き、主体性を持った学習に取り組んでもらいたい。「何をどうするのか」というビジョンを持たなければ、効果的な教育実現は難しい。目的に合わせた適切な準備での取組をお願いしたい。 ○ ある教室において、折り紙で二等辺三角形や正三角形を作ってみようというテーマがあった。二等辺三角形は作り方が二通りあるか、正三角形はその一通りの作り方の応用編であった。それを思いつくのは大変だったろう。私もしばらく考えた。参観している保護者にとっても良い授業になった。もう一度、市木小学校の授業を受けられたらなと、いつも参観日に感じる事だ。 ○ ICTを積極的に活用され、児童の技術向上も感じ、効果も発揮されていた。
	■基本的な学習態度や望ましい学習習慣の形成 ・聞く姿勢や態度 肯定的回答 児童 88% 保護者 95% 教師 58% ・考えを伝える力 肯定的回答 児童 75% 保護者 92% 教師 63% ・漢字力、計算力 肯定的回答 保護者 94% 教師 33%	3	概ね「3」の評価 ○ 児童や保護者は、肯定的な回答が多いが、教師は、最後までしっかりと話を聞いているとは評価していない。 学校の教育活動全般において、話をしっかり聞くことは、相手を大切にすること、思いやりをもつこととも直結するため、道徳教育を含めてさらにの充実を図っていくようにする。	3	3	○ ICT教育の活用で、学習意欲が高まっている一方、書くという機会が少なくなり「聴く」ことに課題がある。児童を聞き上手にする方法を探るとよいのではないかなと思う。 ○ 自分の「考えを伝える力」は育てほしい大切な力ですが、まずは、「聞く力」が基本となるので、弱いと感じられる部分の強化をお願いしたい。 ○ 「聞く力」は学習面においては、記憶力、理解力とつながり、学力を向上させるためには基本となる力なので、どのようにしたら伸ばせるかと方法を探してほしい。
		4	概ね「3」の評価 ○ 児童、教師の評価について80%を下回っているが、ICTの効果的な活用もあり、自分の考えを、根拠等を示しながら分かりやすく伝えようとする態度は少しずつ身に付いてきつつある。今後も、個人思考の時間を確保したり、他との話し合いを充実したりすることで、自分の考えや思いをしっかりと伝えられるように指導を継続する。			○ ICT活用により、視覚と聴覚から複合的な情報を得ることができる。その情報を皆で話し合い、自らが声を発して発表することも大切。今後もそういった環境を整え、自分としてのしっかりとした考えを持ちつづけてもらいたい。 ○ 学習発表会で図画工作の作品が展示してあった。自分が頭の中で思い浮かべるものを実際に表現しようとする、100%にはなれないと思っているが、皆すばらしい感性と表現力を持っていると思う。特に自分のなりたい職業・未来では、泳いでいたり、背を向けていたり、椅子に腰かけたり、立体的に表現する技術も秀逸で見とれてしまった。 ○ 学習発表会では、自分の名前の由来について、保護者との会話が目に浮かぶようだ。また、自分の成長を1才、2才と振り返り、保護者と自分との絆を確認する事で、当たり前と思っている事が大切な事だと意識できて、私も涙が出てきた。
		5	概ね「2」の評価 ○ 児童の評価は90%をこえるものの、教師の評価では、肯定的な評価が50%に達していない。個別の指導を充実させながら授業内容の理解に対する評価は高いので、基礎的・基本的な内容の定着がさらに図られるようにするとともに、漢字や計算を日常に活かす指導を図っていく。			○ 授業の始めに、漢字カードを使った読み書きの小テストの実施。計算力については計算音読やフラッシュカードなどの利用を行い、集中力が定着するように促して欲しい。 ○ 漢字を単語として学ぶ事が出来ても、文章の中で使う応用編で学ぶ事に、まだ不足感を教師が感じていると説明があった。これは、たくさん本を読み、日記を書いたり、作文を書いたりすることでしか実を結ばない。機会を作ることだ。 ○ 漢字・計算力については個人差を考慮しながらも、小テスト等で意欲付けを図ってほしい。また、個別学習の充実も積極的に行ってほしい。

<p>・読書の習慣（家読） 肯定的回答 児童 75% 保護者 56% 教師 50%</p> <p>・家庭学習 肯定的回答 児童 51% 保護者 80% 教師 50%</p>	<p>6</p> <p>概ね「2」の評価</p> <p>○ 6月の第1回の学校評価アンケートと比較すると肯定的評価が増えているものの、まだまだ読書が習慣化しているとは言いがたい。学校で取り組んでいる家読を定期的に行ったり、児童自ら本の紹介を行ったりして、読書意欲を高めていきたい。</p> <p>7</p> <p>概ね「2」の評価</p> <p>○ 家庭によって、家庭学習に対する意識に違いがある。今後も、学級懇談等を通して、学ぶことの意義や家庭学習の大切さや、「申問っ子 家庭学習の手引き」について、児童だけでなく保護者にも啓発をしながら、家庭学習の習慣化を図りたい。さらに、担任による家庭学習の見届けを確実にし、称賛を図ることによって、児童の学習意欲を高めていく。</p>	<p>○ 読書は中々習慣化しにくいものである。小さな時から家庭で、子どもの興味あるものから読んであげ、親しみを付けること。いろんなジャンルでもいいので、読み取る感触の心地よさを自然になじませるとよい。（子ども新聞の熟読等）</p> <p>○ 家庭での読書は、環境づくりからですので、メディアやゲームの時間を減らす取組からだと思う。読書を意識づけるための「読書週間」を定期的に設けたらどうか。</p> <p>○ 学年が上がるにしたがって、読解力が求められるようになる。学力は総合的であり、多面的で、授業で学んだことだけでは不足する。また、その成果がすぐに実を結ぶわけではない。家庭学習が大切なのは、一人の人間の成長の見えざる歩みである。一方、都会の詰め込み学習に嫌気を感じる保護者も多いだろう。学ぶ感性を磨く、体力を向上する、自然の中で生きる、それぞれの選択によって私達は生きていくんだと思ってしまう。</p> <p>○ 保護者は肯定的に捉えているが、児童・教師は低く温度差がある。学習の手引きは効果的な懇談資料である。定期的な啓発を図って頂きたい。</p> <p>○ 家庭学習においては、意識に差があるので「学習の手引き」を保護者に啓発され、家庭学習が習慣化されるよう期待したい。</p>
--	--	--

本年度の重点目標		○ 命を大切に、豊かな心を育む教育の推進 【徳：生命を尊重し思いやる喜び】				
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	日記評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
命を大切に、豊かな心を育む教育の推進	<p>■基本的な生活習慣の確立</p> <p>・挨拶の習慣 肯定的回答 児童 94% 保護者 88% 教師 63%</p>	8	<p>概ね「3」の評価</p> <p>○ 児童は、よく挨拶をしていると自己評価している。保護者の評価についても昨年度71%から88%に向上している。しかし、教師は63%程度と評価が低い。今後は、自分から進んで挨拶することについて、様々な場面で指導したり、児童への声かけや見届けを行ったりすることで、挨拶の更なる習慣化を図りたい。</p>	3	3	<p>○ コロナ渦で大きな声で挨拶が出来ない状況があり、評価が難しいところである。お互いに心が結びつくように、呼ばれた時の返事等の指導も行って頂きたい。学校では出来ていても、一歩外に出ると出来ていないところもあるようです。</p> <p>○ 挨拶すると気持ちが良いですね。一日の始まり、おはようが言えて、その日の出来事が良い具合にまわっていく気がします。自然に笑顔になり、コミュニケーションが豊かになります。校外では大人が率先して挨拶することで、児童とともに明るい社会を目指したいですね。</p> <p>○ 気持ち良い挨拶ができる児童とそうでない児童も見られる。個人差はあるが、全体的には良くなったと感じる。大人の方からも積極的に気持ちよく挨拶を交わし、声かけもしていきたい。「あいさつ運動」という取組はどうでしょうか。</p>
	<p>・学校の生活のきまり 肯定的回答 児童 89% 保護者 100% 教師 86%</p>	9	<p>概ね「4」の評価</p> <p>○ 「市木っ子よい子の一日」等をもとに、日常的な指導を行ってきた。子どもたちにおいては、生徒指導上の大きな問題行動等は発生していない。保護者の評価も100%肯定的である。今後は、きまりを守ることの大切さを常時指導していくとともに、なぜ、きまりを守る必要があるのか、児童自らが考えていくような学級活動の授業を実践したり、保護者・地域との連携を図ったりしながら、地域全体で取り組んでいく。</p>			<p>○ 複数で共に生活したり学んだりするならルールは発生します。その基本は「人々の命やルールを守る」ということができるでしょう。強制力ではないが、その根拠を示し、理解させる。</p> <p>○ 学校の落ち着いた雰囲気の中で生活できる環境は、児童一人一人がきまりを守っているからだと思う。様々な体験の中で、して良いこと、悪いことを把握し、適切な判断ができる児童であってほしい。</p>
	<p>・手伝いや清掃（協力） 肯定的回答 児童 97% 保護者 82% 教師 100%</p>	10	<p>概ね「4」の評価</p> <p>○ 家庭での手伝いや清掃に関しては、保護者の評価は82%であり、家庭での手伝いも行っていることが伺える。清掃については、「だ・い・す・き」の合言葉のもと、しっかりと取り組んでいる。また、清掃終了後は反省会を実施し、よかったところや課題について児童自身に反省させ、次につなげるようにしている。今後も継続して取り組んでいくようにする。</p>			<p>○ 手伝いをする事を子どもたちが習慣化出来れば、段取りや効率化を考え工夫する事は、勉強の上でも大変重要となる。又、親子のコミュニケーションの一つにも繋がる事であり、大人がお手本としての姿を見せてほしい。</p> <p>○ 手伝いや清掃を通して、人の役に立つことのすばらしさを感じ、積極的に活動できる児童の育成をこれからもお願いしたい。</p>
	<p>■学級の望ましい人間関係と思いやりの心の醸成</p> <p>・言葉遣い 肯定的回答 児童 81% 保護者 80% 教師 72%</p>	11	<p>概ね「3」の評価</p> <p>○ 学校では、定期的に心のアンケートの実施及び教育相談を実施している。児童の中には友達が傷つくことを言ってしまったという児童もいるが、学校でいじめは認知していない。嫌なことがあった時も、その都度、児童から教師に教師に相談があり対応している。今後は、学級活動や学級活動を通して相手を思いやる言葉を称賛し合う雰囲気づくりに努めていく。</p>			<p>○ 乱暴な言葉を使う子どもには何か原因があると思われる。正しいの使い方が分からないのは、時に一番身近な親の使う言葉に影響があります。そうであれば親が使う言葉が正しい言葉が正しい言葉でありたいものです。会話を一度止めて少し距離をおくのも大切であり、使ってはいけない理由や、言い換えられる言葉を教えるのもです。</p> <p>○ 「自分がされて嫌なことは、他人にしない」が基本。そして、自分を大切にするように相手が大切に思うことを認めて大切にすることが出来れば最高ですね。自分自身も日々努力。</p> <p>○ 何気ない言動が人を傷つけてしまうこともあるということや児童一人一人がお互いを大切な存在であると認め、協力して生きていくことの大切さを今後共指導してほしい。</p>

					い。 ○ 私は、毎日龍源寺の下で登校する児童を見守っています。その上で週2回、郵便局前の横断歩道の所で交通指導員として見守りをしています。入学後数日、ある1年を見かけて以来、長く見送る事が出来ませんでした。途中まで送っていらっしやるかは分かりませんが、週2回の見守りでも、その児童に合う事が出来ませんでした。先日、いつもの様に郵便局の前で待っていると、その児童が歩いてきました。いつものみんなに少し遅れて来ました。すると5年児童が、集団と一年児童の中間で腰を曲げて声を掛けながら歩くのを見ました。私はとても良いシーンを目にさせていただいたとうれしく思いました。
・人間関係①(人権尊重) 肯定的回答 児童 86% 保護者 93% 教師 86%	12	概ね「4」の評価 ○ 児童、保護者、教師とも肯定的な評価が85%を超えている。授業の中だけでなく、教育活動全体を通して、お互いのよさを見つけ合う場面を多く設定していることが肯定的な意見につながっている。今後も、人権教育・道徳教育の充実も図りながら、お互いを尊重し、認め合う態度を育てていきたい。			○ 小さくても、対等の人格を持った人間として、尊重して接する事が大切である。何をしても、人に迷惑をかけていても、叱らないのではいけない。叱られるという体験も必要、子どものした間違っただけを論ずようにする。理解できる範囲でその理由も話すことよいのでは。 ○ 昼休み時間、運動場で学年を問わず、サッカーをしている場面を見て、児童同士がとても仲が良い印象を受ける。少々のトラブルがあっても解決できる力を持っていると感じる。
・人間関係②(相互協力) 肯定的回答 児童 86% 保護者 97% 教師 100%	13	概ね「4」の評価 ○ 児童は日常的に、困っている友達がいれば自然と助け合い、また、準備や後片付けなど自ら率先して行う様子が見られる。			○ 学業や生活面においてもお互いの人権を尊重し合い、それぞれの考え方や意見に耳を傾けさせる。理解し合うことの大切さを知り、物の判断力を付けさせたいものである。 ○ 困っている友達を助けてあげる優しさ、お互いを大切に思う様子が見られる。
■整理整頓 ・整理整頓 肯定的回答 児童 78% 保護者 62% 教師 17%	14	概ね「2」の評価 ○ 児童は整理整頓ができていると回答しているのが78%であった。保護者の肯定的な評価は62%と昨年度に比べて上昇している。しかし、職員は十分でないという回答が多かった。教職員は、児童に一つ一つ丁寧に手順等を説明しているが、今後も継続的にやっていく必要がある。			○ 口頭で伝えても難しいところはあります。単純に片付けしなさいと教えるのではなく、一緒になって考え工夫しながら取り組むことが大切。物事を順序立てて教えさせ、計画的に行う力を習得させる。それによって重要なものと無駄な物が判断される。周りがキレイになるだけでなく、重要な能力が自然に身に付けさせることができると思います。それを意識する事で、身の回りでなく、一日の予定や、将来の目標までしっかり整理できるようになることと思います。 ○ 整理整頓ができれば、次の行動が楽にできる。理解する事と置く場所を決めて必ず元に戻すこと、後回しにしないことを繰り返すしかない。 ○ 整理整頓することで、前向きな気持ちになり、学習意欲にもつながるので、積極的な取組をお願いしたい。

本年度の重点目標		○ 健やかな体の育成と安全教育の充実 【体：健康・安全で共に伸びる喜び】			
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価
健やかな体の育成と安全教育の充実	■基礎体力の向上 ・外遊びと運動 肯定的回答 児童 86% 保護者 94% 教師 100%	15	概ね「4」の評価 ○ 児童は体育の授業に対する意欲がとても高く、昼休みも、男女を問わず、サッカーなど元気に外遊びをしている様子が伺える。また、少年団や地域の体育的活動に参加している児童もいる。しかし、中には、休日は家でゲームをして過ごす児童もいる。今後も感染症対策を徹底するとともに、運動量を確保しながら、個々の体力向上につなげていきたい。	3	3
	■健康な生活習慣の確立 ・望ましい生活習慣(リズム)の形成 肯定的回答 児童 80% 保護者 83% 教師 72%	16	概ね「3」の評価 ○ 児童の「早寝・早起き・朝ごはん」の回答は80%を超えているが、中には朝ごはんを食べていない児童もいる。歯みがき。家庭環境によって早寝に関しては就寝時刻が遅くなることで、生活リズムが乱れたり、授業に支障が出たりする可能性もある。本年度は、学校保健委員会において、歯の健康についての講話を保護者対象に行った。生活リズムと合わせて、家庭の協力が必要である。今後も、元気アップ週間や学校保健委員会等を通して「早寝・早起き・朝ごはん」を実践する家庭が増えるように努めていきたい。		
					○ 児童の低下は、生活環境の変化と大きな関係がある。体力は日常的に継続しないと高まりません。全体をみると、よく体を動かしている様子が伺える。今後とも更なる指導を行って頂きたい。 ○ 学習発表会で縄跳びがあった。それぞれの体力・技術でできる試技を発表していた。縄跳びで全てを判断するのは危険だが、各自、自分の試技をがんばっていた。大縄跳びも記録を塗り替えて頑張っており、能力の高低とは別の次元で意識を高め、児童の笑顔も良かった。 ○ 全国的にコロナ渦で体力の低下が危惧されているが、市木小の児童は少年団や地域の体育的活動で積極的に運動に取り組んでいる様子が見られる。運動することの苦手意識がある児童も、運動することの楽しさを知って体力向上につなげてほしい。
					○ 生涯にわたって健康に生活していくためには、望ましい生活習慣を身に付けさせることが必要。個々に応じた指導を、家庭と連携しながら行い、生活カード等の活用も含め正しい生活習慣を身に付けさせて欲しい。 ○ 生活習慣を整えるのは、家族が皆で取り組んでできることだ。コロナ等で一時乱れた事もあっただろうが、明るい家庭を作っていってほしい。 ○ 基本的な生活習慣が乱れると、健康面でも学習面においても支障が出てくるので、まずは保護者の意識付けをお願いしたい。

<p>■安全教育の推進 ・安全意識 肯定的回答 児童 89% 保護者 100% 教師 78%</p>	<p>17</p> <p>概ね「4」の評価 ○ 保護者の肯定的な評価が100%であり、交通事故等に遭うといった状況は発生していない。しかしながら、登下校に使用する道路は道幅が狭く、大型車両が通る箇所もあるため、安全に留意する必要があるため、今後も指導を徹底していきたい 地震・津波など避難訓練を抜き打ちで実施したり、駐在所や地区の消防団、保育園とも連携を図った避難訓練を実施したりしたことで、子どもたちが真剣に、そして積極的に訓練に参加する様子が見られた。今後も計画的・継続的に危機回避能力の育成に取り組んでいきたい。</p>	<p>○ いつどんな状況にさせられるかわからない。咄嗟の時の基本的な対処方法を普段から身に付けさせることは非常に大切なことです。訓練を通して理解を深める指導を、今後も実施していただきたい。 ○ 災害は予期していない時に起こります。危険予知、防災の知識を増やす事で「自分の身は自分で守る」事が少しずつでも、できれば幸いです。 ○ 安全に関して井の意識は高く、交通ルールを守ったり、地震や津波が発生した場合の避難訓練が定期的に行われたりしているので、児童自ら命を守る行動ができるようになってきている。</p>
---	--	--

本年度の重点目標		○ 地域に開かれ信頼される学校の実現 【 連：人の役に立ち繋がり合う喜び 】				
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評定	
地域に開かれ信頼される学校の実現	<p>■家庭・地域社会との連携 ・学校と家庭との連絡 肯定的回答 児童 70% 保護者 86% 教師 80%</p>	18	<p>概ね「3」の評価 ○ 家庭と学校・学級との連絡を図るために、通信等を定期的に配布している。しかし、中にはプリントなどを家の人に見せていないと回答している児童も見受けられる。</p>	3	4	<p>○ 教育活動を進めていくためには、学校と保護者が連携を密にし、両者ともが共に手を携えていかなければなりません。お互いが本音で話せる雰囲気づくりも大切であり、保護者・教師とも連携が取れている様子が伺えます。 ○ 連絡がうまく伝わる事は大切な事。プリントに加え、スマートフォンでの連絡網もしている事と思っている。保護者もプリント等の確認を意識することが大切である。 ○ 学校と家庭、地域との連携は良くできていると感じています。連携を図る為の通信等が保護者に届いていないとものたないで、児童に意識付けを行い、保護者にも声かけや確認をしていただきたい。</p>
	<p>・親子の会話 肯定的回答 児童 80% 保護者 89% 教師 100%</p>	19	<p>概ね「4」の評価 ○ 保護者の82%が、学校での様子をよく話していると回答し児童も87%が話していると回答している。家庭での会話を増やすことで、親子の絆を深めたり、児童の変化や学校の様子を理解したりできるようにしたい。また、ノーメディアデー等により、親子で話す時間を増やす等に取り組んでほしい。</p>			<p>○ 「うれしかったこと」「いやだったこと」「くやしかったこと」など、一日の出来事を聴いてあげることで、安心して何でも話せる信頼関係を築くことができます。忙しい毎日の中では、家族みんなで過ごす時間が少なくなりがちです。家族と一緒にいる時間をつくることで、親子の会話が増えコミュニケーションが深まります。一緒に家事をしたり何かに取り組んだりすることで、家族の一員として、支え合っていることを実感できる。本校では割とこの関係はうまく構築されているようだ。 ○ 親子の会話については、児童が話しかけてきたら、先延ばしにせずに、その時、その場で聞いてあげ、話しやすい雰囲気づくりを行っていただきたい。</p>
	<p>・地域との交流 肯定的回答 児童 80% 保護者 89% 教師 100%</p>	20	<p>概ね「4」の評価 ○ 本年度もコロナ渦で活動の制限が多かったが感染症対策を講じた上で、串間市民秋祭りパレードや市木浜クリーン大作戦に、学校として参加することができた。また、学校行事では、デイサービス訪問やグランドゴルフなど地域との交流を行うことができた。地域の方々にも温かい言葉をたくさん子どもたちにかけていただいたので、引き続き交流を深めながら、地域とともにある学校を目指していきたい。</p>			<p>○ 地元行事にも積極的に参加できているようだ。地域のことを意外と知らないこともあると思います。こういった場でいろんなことを学び、今後も益々行動してもらいたい。 ○ 地域との交流は、学校も務めていらっしゃるの十分評価している。これからもよろしく願いいたします。 ○ 3年ぶりに開催された串間市民秋祭りや市木浜クリーン大作戦に参加できたことは、コロナ渦においても明るい兆しを感じた。次年度は、伝統行事の柱松や市木神社祭りに参加できる事を願っています。「子ども柱松」の経験（昔ながらの技法を使って組み立てられ、松明を投げ入れる）は、伝統行事を守っていくとする気持ちや郷土愛にもつながってとてもいいことだと思います。これからも継承していただきたい。</p>
	<p>・学校からの情報発信 肯定的回答 保護者 88%</p>	21	<p>概ね「4」の評価 ○ 保護者の88%が学校からの情報発信が十分に行われていると回答している。今年度は第1回目の参観日が、コロナの影響で実施できなかったが、その後の参観日には、学校関係者評価委員の皆様及び、たくさんの保護者が参観している。学校の情報発信として、毎月の学校だよりを地区の回覧や学校関係者評価委員会の方に送付したり、行事等の紹介をホームページで紹介したりして、教育活動の情報を発信することができた。また、新聞やテレビにも紹介したことで、サーフィン教室や柱松などが紹介された。 急な連絡を要する場合は、マチコミメールを活用したりし、迅速な情報発信にも努めている。今後は地域の方々の交流や情報収集にも力を入れていきたい。</p>			<p>○ 学校・保護者・地域住民との信頼関係を築くためのコミュニケーションツールの一つです。インターネットや学校通信等で、「今、学校が何を目指し、達成するためにどんな教育活動をしているか」「今、どんなことをがんばっているか」という具体的な取組を中心に、知ってもらう為に内外に発信される様子が伝わってきており、今後も更に発信を続けていただきたい。 ○ 回覧板でも学校だよりを拝見している。ホームページ等、配信されているので、地域の方々にも理解を深めていただきたい。テレビ等報道で取り上げられると、高齢者の方々でも話題になるので、学校の積極的な取組が高く評価できる。 ○ 学校からの情報発信が十分行われており、毎月の学校だよりも興味を持って拝読させていただいています。ホームページ等も充実しており、学校での様子が分かりやすくなっている。透明性のある学校として素晴らしいと感じます。</p>

<p>・学校の対応 肯定的回答 保護者 100%</p>	<p>22</p>	<p>概ね「4」の評価</p> <p>○ 全ての保護者が肯定的な回答をしている。これまで、学校が児童や保護者の相談等に対して、迅速かつ適切な組織的対応を行ってきた結果と判断できる。今後も、保護者や地域の方々の意見や要望等に対して、誠意ある対応を心がけていきたい</p>	<p>○ 新型コロナウイルスにより、学校教育や社会全体が色々な変化を求められてきました。その中で学校としての対応力は、心強く感じさせられました。今後とも未来の宝物である子どもたち、大事に育て共に見守っていきたいものです。</p> <p>○ 学校の対応では、保護者の相談等に対して迅速かつ組織的に対応され、また、誠意ある対応を心がけておられ保護者の満足度100%は素晴らしいと幸いです。これからもこうした姿勢を大切にしていきたい。</p>
--------------------------------------	-----------	---	--